

認知症対応型共同生活介護

グループホーム 黒川

「重度化した場合における対応に関する指針」

1. 当グループホームにおける重度化対応に関する考え方

看取り介護とは、近い将来、死に至ることが予見される方に対し、その身体的、精神的苦痛、苦悩をできるだけ緩和し尊厳に配慮しながら終末期ケアを行うことであります。

グループホーム黒川での看取りは、必要な医療措置を行える環境ではないことから、「かかりつけ医」の判断の下、医療施設において加療を行っていただきます。

グループホーム黒川入居中の利用者様が重度化された場合の対応にあたっては、利用者様の意志並びにご家族様の意向を最大限に尊重し、介護の方法並びに治療等についての援助は、利用者様と事業者との間で十分に話し合いを行い、相互に同意された内容について確認を行いながら、多職種協働により、利用者様及びご家族様への継続的支援を図ります。

- (1) 看護師による週5回の健康観察を継続的に行うことにより、利用者様の日常的な体調観察をして参ります。
- (2) 利用者様の体調が悪化した場合には、利用者様、それぞれのかかりつけ医師、看護師に連絡し速やかな対応を図るとともに、ご家族様にも状況説明を行います。
- (3) かかりつけ医師により可能と判断された場合においては、グループホームに居住した状態でかかりつけ医師、またはその指示による看護師の対応により医療対応を行います。
- (4) 重度化により専門的治療が必要となる場合、入居者様がかかりつけ医師によって終末期の状態であると診断された場合、または病気により耐えられない苦痛を伴う場合、ご家族様が病院への搬送を希望される場合、グループホームで居住した状態での介護が困難と判断された場合には、かかりつけ医師及びご家族様と相談の上、看護師と連携を図りながら入院調整等の対応をしてまいります。

2. 重度化対応の体制

① 医療との連携体制

重度化に伴う医療ニーズに応えるため、協力医療機関、利用者様の主治医と連絡を密にしていきます。

② 看護職員の体制

看護職員は、特別養護老人ホームに所属する看護職員が医療連携を行います。内容は利用者様に対する日常的な健康管理、体調観察、通常時及び急性期にお

ける医療機関等との連絡、調整等を行います。

利用者様の主治医によっては、夜間の連携が取れない場合もありますので、出来る限り日中に連携が取れるように致します。

③ 介護職員の体制

日常的な健康状態の把握、体調観察と経過の記録を行います。

食事、排泄、清潔保持の提供と安心される声掛けによるコミュニケーションを行います。

食欲不振の場合は利用者様に合わせた嗜好を提供します。

介護職員による頻回な訪室を心掛けます。

特別養護老人ホームりんどうの職員、各職種の専門性に基づくケアを行い、連携を図ります。

④ 計画作成担当者の体制

重度化しても「その人らしい」生活を送ることが出来るように生活支援ニーズの変化に応じてケア計画を作成します。

継続的な家族の対応を行います。

他職種と連携した支援を行います。

⑤ 管理者の体制

緊急時の対応

職員に対する教育・研修及び職員への指針の徹底

かかりつけ医または協力病院との連携（看護師と連携）及びご家族様への対応を行います。

3. 入院中における食費・居住費の取扱い

居住費（家賃）については、入院期間中であっても在籍をし、家具等が置かれている場合は算定の期間とします。

食費については、入院前に提供した食費を一食単位とし、計算対象期間とします。

4. 看取りへの対応

グループホーム黒川の重度化対応指針に従います。

重度化した場合における対応についての同意書

重度化した場合のグループホーム黒川の提供する対応について説明を受け、下記の内容を確認し同意いたします。

記

- (ア) 重度化に伴い、必要となった医療ニーズに適切な対応ができるよう医療との連携を図ります。
- (イ) 身体的な介護では安心できる声掛けをし、身近に人を感じられるよう利用者様の尊厳を守る援助を致します。
- (ウ) ご家族様の希望に添った対応に心掛けます。

グループホーム黒川 施設長殿

令和 年 月 日

身元引受人 住所

氏名

本人との続柄

施設立会人 職種

氏名